

東日本大震災復興支援報告

～第4回ソーラーパワートラックで被災地へ！～

【支援期間】

2011年5月14日（土）～2011年5月15日（日）

【支援エリア】

岩手県陸前高田市
オートキャンプ場モビリア

2011年5月20日

NPO 法人 そらべあ基金

【目 的】

被災した子どもたちの心のケアの一環として、炊き出しや催し物を開催

<ソーラーパワートラックの概要>

- ・4t車
- ・ディーゼル+電気モーター(ハイブリット)
- ・日野自動車
- ・太陽電池容量5kW (20W x 250枚)
- ・蓄電池容量780～2340Ah
- ・インバーター単相100V 1.5kW x 4台～8台
- ・車体サイズ長8.8m x 幅2.5m x 高3.5m
- ・車両重量8t(2軸)



参考写真：ソーラーパワートラック

5月14日(土)第4回目となるソーラーパワートラックによる被災地支援は岩手県陸前高田市で行われる炊き出し & ヒーローショーなどのイベントでの電源供給を行いました。

第一回目から見違えるほど高速道路は走りやすく段差も無くなっていました。



震災直後の高速道路

NEXCO東日本さんの復旧作業の素早さに驚かされると同時に、感謝の気持ちが自然とあふれました



一関インターを降りると、コンビニ、スーパー、飲食店など震災の影響がないと思えるくらいに普通の町並みになっております。

しかし、峠を越え、陸前高田市に入ると、瓦礫の山、南三陸町で見た景色と同じ街が全て無くなっている景色になりました。カーナビで表示される道も殆ど無くなっており、震災前は道であったら道を通り、今回の支援場所オートキャンプ場モビリアへ向かいました。



このモビリアは県のキャンプ施設で、仮設住宅の設置が決まっています。

今回この企画を地元で計画した方より、陸前高田のお話を伺いました。

陸前高田はカキの出荷量日本一を誇る水産の街として知られていますが、雄大な景色を見に来る観光客も数多く来ら

れて、観光の街でもあったそうです。

しかし、津波によりカキの養殖棚は全て失われ、街も全て失ってしまいました。カキの養殖は出荷まで数年を要するとのお話を伺い、この街の復興は長い年月が必要である事を実感しました。



早速、炊き出しの準備にかかるスタッフ。今回は総勢40人のスタッフで、焼き鳥、焼きそば、ステーキ、お好み焼き、焼きおにぎり、スープ、サラダバー、ドリンク、ポップコーン、綿あめを用意しました。



ポップコーンと綿あめはソーラーパワートラックの電気で稼働！
最初から最後まで子どもから大人の方まで列をつくっていました。

また、太陽光発電のセグウェイの試乗も行い初めて見る近未来の乗り物に大はしゃぎしていました。最初はおっかなびっくりで乗っている人も2、3回試乗するとスイスイとセグウェイを乗りこなしていました。



最後に石巻市からの支援で仮面ライダーショーが始まると子どもたちはどこからともなく集まり、ショーにくぎ付け！何時まで経ってもヒーローはこども達を喜ばせるのですね！

余った飲み物は皆さんに持ち帰って頂きました。
帰りがけ、街の人から「ありがとう」「また来てね！」と声をかけられました。
一日でも早く、漁業の復活、街に活気が戻る事を祈り、陸前高田市を後にしました。



<主催> NPO 法人そらべあ基金
<協力団体> イーソリューション株式会社
株式会社キシムラインダストリー
株式会社ケーユーホールディングス

【協賛・協力企業】

シチズン時計株式会社、セキスイエクステリア株式会社、坪井特殊車体株式会社、集い場
はちまる、
個人協賛16名